

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除技術情報第7号を下記のとおり発表します。防除指導等の参考としてご活用下さい。

病害虫発生予察防除情報 第7号 (タマネギべと病防除対策について)

極早生品種の作付け圃場^ほを中心に、べと病の越年罹病株を確認しています。圃場での発生状況を観察し、「罹病株の抜き取り」と「薬剤防除」を徹底するようご指導願います。

- 1 対象作物 タマネギ
- 2 病害虫名 タマネギべと病
- 3 発生地域 淡路地域
- 4 発生程度 (時期) 多い (早い)
- 5 発生状況・予想について

- (1) 淡路地域で極早生品種において、べと病の越年罹病株 (育苗～本田初期に感染した株) の発生が確認されている。早生品種においても一部圃場で発生している。
- (2) 現在、発病している越年罹病株は、秋期に苗床又は定植直後に本圃で感染したと推定される。今後、発生圃場では気温の上昇に伴い発病株が増加するとともに、分生胞子を形成し二次感染源となる事が予想される。
- (3) 既に2月8日に発生予察注意報第1号を発表しているが、2月16日発表の1ヶ月予報によると、気温はやや高く降水量は平年並みと予想されている。特に、2月18日からの1週間は高温が予想され、発病に好適条件となっており、分生胞子の飛散による二次感染が拡大する可能性が高くなる。
- (4) 中生・晩生品種については現在のところ発生圃場を認めていないが、今後発生するものと予想される。

6 本病の特徴について

本病は卵菌類による病害であり、前年秋～初冬の苗床や圃場で土中の卵胞子が、降雨等により苗にはね上がり感染し、本田で越年罹病株として発病する。この越年罹病株上に形成された分生胞子が風雨で飛散し、二次感染が起こる。発病は気温15℃前後で高湿度状態 (曇雨天) が、1～2日続く場合に助長される。好適条件において病勢の進展はきわめて速い。

7 防除対策について

- (1) 越年罹病株の抜き取りを徹底する。広域伝染は越年罹病株で形成された胞子によって起こるため、防除対策はまず、越年罹病株の抜き取りが重要である。気温の上昇に伴い、見分けやすい典型的な罹病株 (写真) が見られるようになるので、圃場内を注意深く観察し確実に抜き取りを行う。
- (2) 越年罹病株は、圃場内で徐々に発生してくるため、定期的 (3月末まで、1～2週間に1回) に

圃場をよく観察し、抜き取りを行う。また、孢子飛散を防ぐため、抜き取った株は直ちにポリ袋などに入れ、必ず圃場外へ持ち出した上で、残さ（抜き取った株）の重量に対して1%の割合で石灰窒素を混ぜ、密封して確実に腐らしてから処分する。

- (3) 発病を認めた場合は、栽培暦やタマネギベと病対策マニュアル（技術者版）に従い、罹病株の抜き取りと薬剤防除を徹底すること。
- (4) 薬剤防除は、発病の有無にかかわらず、防除暦に従って必ず行う（中生・晩生を含めて全品種）。散布時期は降雨前が望ましい。なお、薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行うこと。



写真 越年罹病株（葉身が湾曲・黄化し、分生孢子を形成する。右写真のように生育が悪く、草丈が低くなることもある。）

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222